

佐賀市総合計画審議会 意見整理表

No	基本政策	施策	ページ	発言者	発言内容	対応方針	計画素案【6.14時点】	計画修正案
1	序論・基本構想	人口ビジョン	13	渡島委員	人口減少について。人口が20万人を切らないように対処する必要があると考える。人口減少の課題を追究して解決していけば、人口増加も見込めるのではないかと。たとえば、人口30万人をめざす、というのを打ち出してもいいと思う。	2020年の市の合計特殊出生率は1.61だが、現在の人口水準（23万人）を維持するには出生率が3.9、人口増加には4.5が必要と推計している。この推計を受け、計画の人口ビジョンにおいて、「少子化の課題」と「人口減少による課題」は切り分けて考え、「人口減少の幅を上向かせる」と「発想を転換したまちづくりを推進」することを記載している。		
2	9都市・交通	多様な移動ニーズに応える地域公共交通の実現	51 52	渡島委員	交通機能について。佐賀駅が機能していない。佐賀市公共交通計画においては、バスのことに言及しているのみだったので鉄道のことをもっと考慮するべき。	公共交通については、基本計画「都市・交通」の分野で議論を行う。また、佐賀市公共交通計画等の個別の計画については、個々の計画内で議論を行う。		
3			31 32	渡島委員	都市構造が古いことが問題と捉えている。道路事情が悪く、土地の形態もせまく非常に入り組んでいる。	都市構造については、都市計画マスタープランの中で議論を行う。		
4			-	宮城委員	計画を見ると個別具体的な提案の意見を言いたくなってしまうが、この計画の策定の背景等の前後関係など説明があれば、本会議の中で決めるべきこととそうでないことの、議論の論点が整理できると思う。	総合計画は佐賀市の最上位計画である。まずは佐賀市がどういうまちになって欲しいかというところを本会議で議論いただきたい。そのうえで本分科会は、「基本構想」と基本計画のうち「文化・スポーツ」「コミュニティ」「行政経営」を議論いただく場として位置づけている。基本構想では、まちの将来像を掲げる大きな考え方を示し、基本計画では、それぞれの分野における将来像や考え方を示すものである。		
5			-	渡島委員	計画の中に具体的な案や数値目標は置くべきではないか。数値目標がないと、市と市民が何に向けて協力して頑張ればいいのか、分からないと思う。	数値目標については、本計画の実施計画として新たに位置づける総合戦略の中で定めることとしている。		
6	3文化・スポーツ	文化の魅力を高め未来へ		野中委員	松原公園周辺の将来像も別途掲げられているが、これまでの現状等を踏まえて総合計画を作ってほしい。	今回の総合計画においては、将来的にどのようなまちになりたいのかという点を皆さんで議論いただきたい。そして、それに向けてどういことをしていかなければいけないのか、という点を考えていきたい。		
7			-	鳥井委員	人は幸せに生きたいとか面白いとか楽しいところが集まると思う。そういったまちづくりを進めていくにはリサーチが重要だと思う。いつ幸せを感じるかなどの簡単なアンケートを集めて、それが実現できるような仕掛けができればいいのではないかと。また、情報発信もタイムリーな話題を常に追いかけてPRをしていくことも大事だと思う。	本計画を策定するに当たって市民の幸福度（Well-being）を調査し、市民の幸せについて見える化を試みてきたところ。ご指摘のとおり、市民が何を幸せと感じるのかという視点は重要であると認識しており、今後もこの幸福度調査等を活用して、市として何を重点的に取り組んでいくのか議論していきたい。		
8	序論・基本構想	人口ビジョン	13	渡島委員	前回会議の際の事務局からの説明を聞いて、人口減少について高齢化を中心に考えられていると感じた。都市中心部や産業の衰退によって、働き先がなく若者が流出していることが過疎化や高齢化、ひいては人口減少の真の原因だと考えている。こういった佐賀市が抱えている課題を洗い出して、何が重要な課題なのかを抽出する必要があると思う。	総合計画の中では、具体的な課題感というよりも、人口構造の変化に対する大きな方向性を基本構想の中で示したいと考えている。		
9	序論・基本構想	将来像	24	野中委員 福成委員	・持続可能な佐賀市を考える中で、佐賀らしい文化という考え方が市全体として一致しているのか。佐賀らしさとは何なのかを統一させるべきではないか。次回までには、佐賀らしさについて、統一した定義付けをするべきだと思う。 ・将来像は2040年に佐賀市にありたい姿だと理解している。みんなが共感しワクワクするような文章になっていることが理想的だと思う。佐賀らしさという言葉聞いて、それぞれ皆が感じることは違うため、その中で佐賀らしさ何なのかを限定するのは難しく、定義付ける必要もないのではないかと。思う。	市民アンケートや高校生ワークショップ等の結果で表れているとおり、一人ひとりが考える「佐賀らしさ」があり、一義的に定義できるものではないと考えている。この分科会では、どのような佐賀らしさを大切にしてまちづくりを進めていくべきかというところをご意見をいただきたい。		

No	基本政策	施策	ページ	発言者	発言内容	対応方針	計画素案【6.14時点】	計画修正案
10	序論・基本構想	将来像	24	福成委員	将来像の中に市民参画の視点が不足しているのではないかと思う。市民も行政サービスをただ受けるだけでなく市民も主体となって参画し、みんなでまちづくりをしていくことが佐賀らしさに繋がると思う。みんなが上を向きつつも、参画したい、参画してよかったというまちづくりを目指していくという文面があればよりよい文章になると思う。	将来像のうち、「まち」の目標において、市民参画の視点を加える方向で検討したい。	<p>■将来像に向けた目標</p> <p>○変化に向き合い挑み続けることで進化し続ける「まち」になろう</p> <p>…</p> <p>これまでにあった資産や歴史を守ることは前提として、一方で、変化に向き合い進化に変えていくこと、まちが持つ自然や個性、人々のつながりを大切にしながら変わり続けることで、このまちに住む人々にとって心地よいまちづくりを進めていきます。</p>	<p>■将来像に向けた目標</p> <p>○変化に向き合い挑み続けることで進化し続ける「まち」になろう</p> <p>…</p> <p>これまでにあった資産や歴史を守ることは前提として、一方で、変化に向き合い進化に変えていくこと、まちが持つ自然や個性、人々のつながりを大切にしながら変わり続けることで、このまちに住む人々にとって心地よいまちづくりをみんなで進めていきます。</p>
11	4 経済・観光	価値のある観光体験の提供	42	野中委員	人口の自然減は全国的な問題なので、仕方がないと思う。社会減をどのように食い止めるかとなると、経済がキーとなり、近年は観光産業がトレンドとして重要視されてくる。長崎街道を集客性の高い観光地として開発するなどの具体的な取組みが計画の中に織り込まれている必要がある。	「04 経済・観光」に係る意見のため、経済・産業分科会において整理を行う。		
12	基本計画	横断的な視点	34	今村委員	【こども・教育・福祉分科会】 多様性について考えると、基礎データの中に外国人の人口データも含めるべきではないか。外国人留学生、外国人労働者、その家族の問題など、佐賀県の中でも佐賀市はグローバル地域の課題先進地となると考えている。大人も子どもも含めて、外国人の日本語教育や、外国人の子育て問題についても大きなテーマとして考えて欲しい。また、人材確保の観点について、介護福祉士のコースの7割は留学生であり、観光人材も留学生が増えている。地方はより外国人人材のニーズがあり、市の施策として、外国人に対する移住・定住などの国際化についての施策を強く打ち出すべきではないか。	前回の分科会で、「国際」の観点については「横断的視点」のうち、「②多様性」の中に含めることで整理していたが、意見を受け、新規項目として、「国際性」の項目を追加する。	<p>●横断的視点</p> <p>それぞれの分野の枠を超えた横断的な視点として、「主体性」「多様性」「持続性」「柔軟性」の4つの視点から横断的に施策を展開します。</p> <p>②多様性…多様性を理解し、尊重する社会へ社会情勢や構造は常に変化しており、市民の価値観や生活スタイル、ジェンダーなどの多様性を認め合う社会の実現が求められています。</p> <p>このような変化を互いに受け入れながら、市民がそれぞれの立場、特性、権利を理解し、尊重した上で支え合い、一人ひとりが豊かな暮らしを送ることができるように、みんなが積極的に協力する社会を目指します。</p>	<p>●横断的視点</p> <p>それぞれの分野の枠を超えた横断的な視点として、「主体性」「多様性」「持続性」「柔軟性」「国際性」の5つの視点から横断的に施策を展開します。</p> <p>②多様性…多様性を理解し、尊重する社会へ社会情勢や構造は常に変化しており、市民の価値観や生活スタイル、ジェンダー、グローバル化などの多様性を認め合う社会の実現が求められています。</p> <p>このような変化を互いに受け入れながら、市民がそれぞれの立場、特性、権利を理解し、尊重した上で支え合い、一人ひとりが豊かな暮らしを送ることができるように、みんなが積極的に協力する社会を目指します。</p> <p>⑤国際性…グローバルな視点を持ち、世界に開かれた社会へ技術の進歩や世界経済との結びつきなどを背景に、グローバル化は急速に進展しており、経済や観光、教育などあらゆる分野においてグローバルな視点で物事を捉えることが求められています。</p> <p>「日本国内の佐賀」だけでなく、「世界の中での佐賀」にも目を向け、地域の魅力を磨きながら発信し、世界に開かれた社会を目指します。</p>
13	7コミュニティ	みんなが主役のまちづくり	47 48	かぐもと委員	【くらし・環境分科会での発言】 ゴミ拾いのボランティアなど、他分野の活動が防災や防犯といった取組に繋がることがあって、自治会長などの役職に就いていない人でも、地域のことをよく理解している人もいます。役職がある人やある一定の分野の人だけが集まるコミュニティではなく、地域の困りごとを地域住民のみんなと一緒に解決していくような情報共有の場があればいいのではないかと思う。	まちづくり協議会は、概ね小学校区単位で組織されており、校区内の様々な団体を緩やかなネットワークでつないだ組織として、校区独自の地域課題の解決等を目的に活動されています。既存の各種団体にはないまちづくり協議会の特徴は、校区内の各種団体に属さない一般の人や年度交代などで各種団体を卒業された人など、まちづくりに関心の高い様々な人々も構成員として参加できるような組織となっています。		
14	7コミュニティ	自分らしく幸せに暮らす社会の実現	47 48	福成委員	主なポイントの1つ目の文末、「同時に他人を思っていること」というフレーズについて、口頭では「同時に他人を思い合っていること」という説明であったが、思い合っていることという言葉が大事だと思う。またそれに伴って、p.48の「2 自分らしく幸せに暮らす社会の実現」というフレーズがあるが、「自分らしく幸せに暮らす」は個人個人がぶつかり合うようなイメージがある。フレーズとしては、「自分らしく幸せに暮らしあう」のほうが望ましいと思う。	主なポイント「同時に他人を思っていること」、施策「自分らしく幸せに暮らす社会」いう表現については、見直しを行う。	<p>【主なポイント】</p> <p>個性や生き方等の違いを認め合い、自分を大切にすると同時に他人を思っていること</p> <p>【施策】2</p> <p>自分らしく幸せに暮らす社会の実現</p>	<p>【主なポイント】</p> <p>個性や生き方等の違いを認め合い、自分を大切にすると同時に互いを思い合っていること</p> <p>【施策】2</p> <p>自分らしく幸せに暮らし、支え合う社会の実現</p>